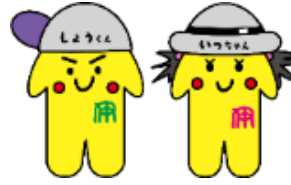


伊万里小



第10号

R7.1.31

学校目標 輝け！伊万里小

校長 松本 繁

立春がすぐ目の前にきていますが、来週も寒波で冷え込むとの予報です。積雪や道路凍結の心配はなさそうですが、児童の登下校の安全確認や体調管理には気を付けたいものです。

さて、今回は、「学校における働き方改革」について考えてみましたので御一読いただければ幸いです。

○ 「子どもたちのため」の学校の「働き方改革」

子どもたちの将来の夢として、「先生」と答える児童はいます。しかし実際は、教員採用試験の倍率が下がっているのが現実です。なぜ教師を目指す人が減ったのでしょうか。その理由の1つに学校に求められる役割が多すぎるのが考えられるのではないのでしょうか。

学校は、さまざまな課題への対応を求められてきました。その結果、本来は学校の業務ではないことや必ずしも学校の業務とはいえないことなど多岐にわたる業務が重なって、教師は過重労働になっています。

その解決策として、**地域人材を活用**して学校の負担を軽減することが考えられます。そして、保護者の協力が必要です。**家庭での子育てを充実**させることで子どもの成長を助けます。そのことが学校の負担の軽減につながると思います。**地域と保護者が学校と共に**子どもたちの成長を支援し、これらの**役割がうまく連携**することで、**子どもたちの健全な成長が促される**でしょう。

1 学校の役割

- ・学習指導:子どもたちに基礎的な学力を身につけさせるための教育を行います。
- ・社会性の育成:子どもたちが社会で必要な規範意識や協調性を育む場でもあります。
- ・安心して学べる環境作り:子どもたちが安心して学べる環境作りを行います。

2 保護者の役割

- ・家庭教育:愛情によって自己肯定感を高め、基本的な生活習慣や価値観を教えます。
- ・学校との連携:学校と協力して子どもたちの学習や成長を支えます。
- ・行動の手本:保護者の行動や態度は、子どもたちにとっての手本となります。

3 地域の役割

- ・教育環境整備:子どもたちが安全に育つように環境を整えて学校や家庭を支えます。
- ・社会教育:多様な経験や学びの場を提供し、社会性や地域への愛着を育てます。

「教師は授業で勝負する」という言葉があります。**教師が授業づくりに専念**できる環境が必要です。教師は、教材研究や児童・生徒の個性伸長を目指す取組のために時間を使いたいと思っています。そのためには、学校、保護者、地域がそれぞれの役割を再認識して取り組んでいくことが大切で、それが学校の働き方改革につながります。**学校の「働き方改革」は、教師が子どもと向き合う時間を作り出し、より質の高い授業を行うための取組**だと考えます。